

地域資源を活用した地域の活性化

市木 美し里 楽学プロジェクト

モデル公民館(H24～H25)

邑南町市木公民館

【取組の概要】 地区のお宝を伝える「ふるさと学芸員」を養成し、スキルアップやネットワーク作りを田舎ツーリズム推進研究会と連携して行った。ふるさと学芸員には地区内外からのガイド依頼が絶えずあり、学校や地域での学習に欠かせない存在となっている。

1 本事業に取り組もうと思った理由

宿場町であった市木地区では、地域住民に地域資源や文化を活かしたおもてなしの心が備わっている。その地域性を活かして市木地区では自治会が中心となり、地区内の歴史や文化、伝説、伝統などをモチーフにした“市木カルタ”を平成21年から1年間かけて作成した。この地域資源をツールとして、市木のお宝を地区内外に広く発信している。このカルタには絵札の裏面に説明や地区の思い・願いが書かれている。このことで地区のお宝を、永く後世に伝えることができるようになった。

しかし、カルタは完成したが、それに書かれてある歴史や文化、伝説、伝統などを学ぶ場が少なく、地区内のお宝を後世に残すために学習したいという強い要望が住民からあった。

公民館では要望に応えるべく、地区のお宝について学習し、おもてなしの心で地区のお宝を説明するボランティアガイド“ふるさと学芸員養成塾”を立ち上げ、学びの場を提供している。

このふるさと学芸員養成塾では、『学ぼう！社会教育』『伝えよう！ふるさと教育』『楽しもう！生涯学習』の3つをテーマに学芸員のスキルアップを目指し、カルタに書かれていることを中心に地区のお宝について日々学習している。



市木カルタ

2 公民館としての仕掛け

この学芸員が学んだ成果を発表する場として、市木小学校と連携したふるさと学習“ふるさと市木探検隊”を毎年開催し、カルタに書かれている地区内のお宝を中心に市木小学校児童に説明している。昨年はケーブルテレビと連携し、学芸員が地区内のお宝を後世に残すため、小学生にお宝のある場所や伝説を教える番組を制作し放送した。

公民館の利用者を中心に、市木カルタ予選大会を行い、勝者は毎年公民館まつりで開催している市木カルタグランドチャンピオン大会に出場し、市木のお宝を広めている。この大会でも、カルタの読み手は学芸員の方にお願いしており、活躍の場を設けている。

また、田舎ツーリズム市木支部と連携し、地区内に伝わる四季折々の伝統料理を公民館まつりで展示したり後世に残すために料理教室を開催したりしている。

以上のように、地域資源である市木カルタを活用し様々な場面でふるさと学芸員養成塾の方が活躍できる場を設け、市木のお宝について地区内外を問わず、広く発信している。



市木地区で秋祭りに食べられていた郷土の伝統料理



市木小児童によるお宝探検の収録

3 事業の成果(地域の変容・公民館の変容)

“ふるさと学芸員養成塾”立ち上げ当初から、地域のお宝への学習意欲は高く、それぞれの得意分野を教えあい、刺激しあうことで、さらに「学習したいという意欲」を高めることで、ボランティアガイドとしてのレベルアップへと繋がってきた。

学芸員が身につけた知識は、同じくおもてなしの心で活動している田舎ツーリズム市木支部が作る郷土の伝統料理、公民館まつりの演劇、市木小学校との連携事業であるふるさと市木探検隊など、地区全体で活かされている。

多様な知識を持ったふるさと学芸員は、それぞれの地区でリーダー的存在となっている。

実証！「地域力」醸成プログラムの補助金は今年度で終わるが、ふるさと学芸員養成塾では年会費制をとっており、学芸員全体で意欲的に学習する仕組みが確立されている。

しかしながら、学芸員の高齢化が進んでおり、数年後には維持継続していくのが難しい状況となることが予想される。地区内の若い人たちに入ってもらい、ふるさと学芸員養成塾を永く継続していくことが今後の大きな課題である。

公民館としては、このふるさと学芸員養成塾を盛り上げていくために、公民館だよりなどを利用し、若い世代の人たちへ参加していただけるよう、積極的にアピールしている。



公民館祭で地区のお宝を題材に熱演



知識を活かした熱心なガイド

4 公民館として「地域力」を醸成するために大切にしてきたこと

(1) 地域課題について学び、事業が終われば必ず振り返りをする

地域課題について学び、その学んだ事を伝えて行く。それぞれの事業を検証し、継続することと見直すことを明確にし、次に活かすことによって、単発で終わらせず事業を継続し、地区の活性化を図っている。

(2) 子どもから高齢者まで幅広い声掛けをし、多くの団体に参加してもらう

公民館で事業を企画・開催する際には、子どもから高齢者まで幅広い声掛けをし、より多くの地区民を巻き込み、地区全体でのイベントにする。そのことによって、参加者の消費者意識脱却を図り、地区の大切な人財であるという自覚と誇りを持ってもらい、積極的に地域に出て行事に参加できるようにしている。

(3) 地域づくりに意欲を燃やすリーダーを育成すること

地区のリーダーを育成することで、リーダーが牽引役となって、地区全体を巻き込んだ事業展開が可能となり地域力が醸成された。

このふるさと学芸員養成塾が地区の中心的な組織となって他団体と協力する体制が整っており、地区全体を巻き込んだ事業を展開している。



ふるさと学芸員養成塾のみなさん！